

広島市総合計画審議会第3回第一専門部会 会議要旨

1 開催日時 平成31年(2019年)3月27日 午前10時00分～午前12時00分

2 開催場所 広島市役所本庁舎14階 第7会議室

3 出席者

(1) 委員(15人中14人出席)

藤谷部会長、フンク副部会長、浅枝委員、伊藤委員、下谷委員、下村委員、田村委員、福田委員、藤原委員、矢野委員、吉田委員、米田委員、渡部委員(代理 山田部長)、若本委員

(2) 事務局(市)

企画総務局長、企画調整部長、政策企画課総合計画担当課長、政策企画課職員

4 議題

広島市が直面する中核課題に対する対応策の検討について

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴者

(1) 一般傍聴者 3名

(2) 傍聴者(報道関係) 0名

7 会議資料

(1) 議事資料

広島市が直面する中核課題に対する対応策の検討について

(2) 参考資料

ア 議事資料(広島市が直面する中核課題に対する対応策の検討について)の修正のポイント

イ 議事資料(広島市が直面する中核課題に対する対応策の検討について)の新旧対照表

ウ 持続可能な開発目標(SDGs)と「対応策の方向性」との関連表

エ 広島市総合計画審議会専門部会別委員名簿

8 発言の要旨

[開会]

[議事]

藤谷部会長

本日は第3回目ということで、最後の専門部会となる。これまで、第1回、第2回で皆様から頂いた御意見などを踏まえ、事務局で修正した議事資料「広島市が直面する中核課題に対する対応策の検討について」を審議し、第一専門部会として取りまとめた。

それでは、事務局から説明をお願いします。

事務局(藤岡政策企画課総合計画担当課長)

(「議事資料の修正のポイント」を説明)

藤谷部会長

議事資料については後ほど詳しく説明していただくが、米田委員が所用により途中退席されるので、先に御意見を伺いたい。

米田委員

修正箇所に対してはないが、農林水産業の代表として、中央市場の再整備について、いかに市場付近ににぎわいをつくるかというところを注文したいと思っている。

藤谷部会長

この部分については、後ほど検討させていただきたい。
引き続き、事務局に議事資料の説明をお願いする。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

（議事資料を説明）

藤谷部会長

事務局から修正のポイント及び議事資料の修正について説明があった。この内容について審議するが、その前に、本日御欠席の委員に事前に行った意見照会の結果について、事務局から報告していただきたい。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

本日御欠席の西川委員に、事前の意見照会をさせていただいたが、意見は特になかった。

藤谷部会長

それでは、審議に入りたい。先ほど申し上げたように本日は最後の専門部会であるため、皆様の積極的な御意見をお伺いしたい。事務局からの説明のとおり、第一専門部会の所管である5ページから16ページまでを審議する。皆様から項目を縛らず御意見を伺ってもいいが、議事の進行のため、項目ごとに御意見をお伺いしたいと考えている。

最初に5ページの「国際的に開かれた活力あるまち」の「都市機能の充実強化」の項目について、御意見のある方がおられるか。

田村委員

意見ではなく確認になるが、7ページの「公共交通を軸とした交通体系の構築」について、現状と課題に「交通事業者と連携しながら」とある。当然、行政だけではできないことで、路面電車やバスなどの交通事業者も関わってくると思う。どちらかと言えば交通事業者が取り組まないといけないこともここに書かれていると思うが、その辺りは既に協議・調整しつつあるという理解でいいか。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

7ページの左端に部門計画として「公共交通体系づくりの基本計画」を記載しているが、現在この項目に掲げている取組は基本的にはこの公共交通体系づくりの基本計画に掲げている取組を継続していくものである。この基本計画の策定に当たっては、関係する交通事業者の方に委員になっていただいた上で、協議体を設置しており、その協議の結果によって策定した計画であるため、合意は得ているものと考えている。

藤谷部会長

それでは、他に御意見がなければ、この項目について原案どおりということにしたいがどうか。

伊藤委員

7ページの「公共交通を軸とした交通体系の構築」について、自転車ここに書かれている個々の中で位置付けが難しいと思うが、公共交通機関をどれだけ充実させても補い切れないところのパイプ役として自転車を活用してもらいたいという方向性であれば、そういった内容を明記した方が今後の

自転車の活用方法の幅が広がっていくと思うので御一考いただきたい。

藤谷部会長

確認になるが、7ページの対応策の方向性の表現だけでは弱いということか。

伊藤委員

この内容が、自転車を、JR、アストラムライン、バスといった公共交通機関をつなぐパイプ役として位置付けていることが加味された内容であれば、この表現でも十分だと思う。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

伊藤委員から頂いた、自転車の公共交通機関を補完する役割というのは、市としてもそういった認識であり、対応策の方向性については、こうしたことを念頭に置いて記載したものである。内容的に、現状と課題でも「自転車は、公共交通を補完する移動手段として、その役割がますます重要になっており」という部分で触れさせていただいている。

藤谷部会長

今の御意見の内容は含まれているので、原案どおりでいいのではないと思うが、もし付け加えることがあれば修正するが、無ければこの原案で進めさせていただけたらと思うがよいか。

伊藤委員

了解した。

藤谷部会長

それでは、次に9ページ以降の「産業の振興」について、御意見があるか。

矢野委員

9ページの「産業の集積・強化」について、今回の修正案でより先進的なものを取り入れて、最先端の産業に押し上げてそれを支援していくという方向性が見られて、その点は良いと思ったが、一方で、広島市内の伝統技術、伝統産業に関しては、そういった先進的な産業と比較すると弱く読めてしまう気がする。地場産品の販路拡大というところに伝統品・工芸品等も含まれていると思うが、産業全体としての支援については触れられていない。今、伝統技術、伝統産業の分野では事業の継承が難しくなっており、かもじ、針、仏壇といった広島の歴史を持った伝統産業が失われつつある状況だと思う。生産面においても伝統産業を残していく支援をするのであれば、触れてもいいのではないか。先進的な技術の導入によってもものづくり産業の競争力強化をする一方で、という形になるだろうが、御検討いただきたい。

藤谷部会長

9ページの対応策の方向性の真ん中の部分について、多様な地場産品の販路拡大と、圏域内における地産地消に取り組むというところに、生産の部分を加えてはどうかという御意見だが、どうか。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

おっしゃったような産業については、地場産品の販路拡大という部分と、中小企業という観点であれば、10ページの「中小企業・商店街の活性化」の対応策の方向性の1段落目の「中小企業の経営改善に向けたサポート」といった部分に含まれてくると思う。具体的に伝統産業に言及するかどうかについては、関係課とも協議した上で判断したい。

藤谷部会長

この点については、事務局と私で検討させていただきたい。他に御意見があるか。

若本委員

事業資金の調達について、フィンテックなど新しい形のものが登場しており、資金調達の方法が多様化している。10年、20年の計画を策定するときに、新しい形の資金調達をどこかに入れられないかと思う。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

新しい形の資金調達については、今、想定しているものはないが、中小企業への融資や創業ベンチャーに関するサポート、コンサルティングだけではなく、条件に応じて補助金を出す取組を行っている。こうした意味で、資金面での補助はしているが、新しい形というところまで言及できるかについては、御提案として受け止めながら関係課とも協議した上で判断したい。

若本委員

おそらく今後、間接金融から直接金融にシフトしていくと感じている。まだまだ見えてないところも多いが、これまでのお金の流れは、かなり大きく変わっていくと思うので、その辺りのサポートをどう盛り込むかということも必要だと思う。これは地方銀行の今後の形も含めて、地方銀行が統合されていくと地域の経済も大きく様変わりしていくと思うので、この辺りも含めて、どこかに盛り込めないかと思い、私自身も回答を持っているわけではないが、意見を申し上げた。

藤谷部会長

直接的ではなく、マイルドな表現になると思うが、検討していきたい。

先ほど、米田委員から頂いた、中央市場の再整備に関する御意見について、10ページの「農林水産業の振興」に書かれてはいるが、この程度でいいだろうか。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

中央市場の再整備については、基本計画を策定しており、来年度から本格的に進めようとしている。この基本計画の中では、流通機能の維持・向上といったことに加えて、にぎわい機能についても検討していくことになっている。にぎわいというのは、全市的に必要なことではあるが、この農林水産業の振興という項目に当たっては、供給環境や流通機能の整備がメインになるだろうということでの書きぶりになっている。

藤谷部会長

他に御意見はないか。

福田委員

10ページの「中小企業・商店街の活性化」の「人口流出と高齢化が深刻な中山間地・島しょ部」という部分に関連する話になるのか、後の15ページの「中山間地・島しょ部の魅力あるまちづくりの推進」での話になるのか分からないが、若い人が移住することを考えるときに、やはり仕事が重要だと思う。最近、田舎でもインターネット環境さえあれば様々なことができ、こういったことで成功している地域もある。こうした環境が広島市ではどの程度充実しているのか分からないが、この「地元中小企業の支援に取り組む」と書いてあるところに、ネットワークを介して新しい事業に取り組む企業に対する支援や、インフラとしてインターネット環境の整備について特に触れる必要はないか。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

現在、本市では、中山間地など一部の地域で高速ブロードバンドの行き届いていない地域があるが、今、民間事業者とも連携しながら、解消に努めているところである。今後の予定は、来年度中にはこうした地域が解消する見込みである。つまり、この総合計画が改定される32年度の段階では解消されているため、特にそういったことには触れていない。

福田委員

活用するのを支援するという方向性はないのか。

藤谷部会長

15 ページの「中山間地・島しょ部の魅力あるまちづくりの推進」のところに包括されて書いてあると理解しているがどうか。ICTを利用した活性化策ということだと思うが、こちらに含まれているのではないか。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

現時点で想定しているものとして、例えば中山間地において、情報通信技術などを活用したところに対して重点的に支援するといったことは想定しておらず、より幅広い支援策として、従業員確保のための補助や、事業者と生産者のマッチングする機会の設置といった支援を想定している。

田村委員

前回もお話したが、大分県国東市でイギリス人がインバウンドの取組として香港の高校生を修学旅行で誘致することを毎年行っていて、全国的な活動にもつながっていると聞いた。この取組では日本人も外国人も含めた若い人たちが田舎に集まって、雇用をつくり出して、しかも子どもが生まれて人口が増えて、地元の事業も活性化している。社長のイギリス人にインフラとして何が大事か聞いたところ、大容量で短時間に処理できるインターネットのインフラ設備だと言われた。これがあれば、外国に対して情報発信が可能であり、非常に大きなポイントだということを書いていたことを思い出し、福田委員の意見の関連で申し上げた。

藤谷部会長

具体的なアイデアとして、ICT、情報通信による地域の活性化を入れてはどうかという御意見である。これもどこまで表現として盛り込めるか、15 ページに情報通信技術を活用した産業の振興に努めるといった表現を入れるかどうかだと思う。これも事務局との検討にさせていただきたい。

矢野委員

10 ページの「農林水産業の振興」のところで、都市部の農業にも触れていただき感謝申し上げます。中央市場の再整備について、基本計画を取りまとめる検討会の座長をしているので、意見を申し述べたい。農林水産事業者の一部の方から、観光的な面も取り入れ、にぎわい施設を市場に併設してはどうかとの御意見が出ており、できるだけ汲み取って検討していきたいと思っているところだが、それ以前に卸売市場は流通の要として、HACCP対応、JAS対応などにより流通の高度化を進め、市民へのより安全な食料の供給という役割がなければ、市がこういった施設を整備する意義が弱くなってきていると一般的には言われている。なので、やはりここに書かれているように、「安定的な供給環境や流通機能の整備に取り組む」ということを一義的には進めていくという意味でこうした書き方はありがたいと思う。

藤谷部会長

他に御意見はあるか。

それでは、ここでは伝統技術、伝統産業への取組について、生産面の支援はどうか、フィンテックなど新しい資金調達方法に対してどう対応していくか、それから、中山間地域におけるICTなどの情報技術を活用した振興についてどうか、この3点についてまた後ほど事務局と検討していきたいと考えている。

それでは、次に11ページの「観光の振興」について、御意見があるか。

フंक副部会長

前回の意見をかなり反映していただき、観光の部分は長くなっているが、あと2点加えていただけないか。一つは対応策の方向性に、年間を通じた誘客に向けていろいろと挙げているが、その中に既に取り組んでいるピースツーリズムを入れてはどうか。これは広島の特徴だと思う。「広島ならではの特色ある食」はどの市町も取り組んでいることだが、ピースツーリズムは広島、長崎が主に取り組んでいるものだと思うので、入れてはどうか。

もう一つ、今回は、オーバーツーリズムという、観光客が急激に増加して生じる様々な課題の一つとして宿泊施設の不足という意見があったが、こうした宿泊施設の整備に加えて、観光客と住民が共に快適に過ごせるように、観光地の適切な管理を進めるといった表現を入れてはどうか。観光客が、例えば渋滞や混雑で長時間待たされることがないように、観光客によって住民の生活に支障がないように、観光地の適切な管理を対応策の方向性のどこかに入れられないか、検討していただきたい。

藤谷部会長

ピースツーリズムは確かに広島市の取組としてあるので、これは対応策の方向性の中に一つ入れてもいいのではないかと思う。観光地の適切な管理についてはどうか。書きぶりが難しいと思うが、最後に入れるのがいいだろうか。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

調整の上、判断したいと思うが、対応策の方向性なので、実質的な管理をどうするか、例えば駐車場をどうするかといった具体的なことについては、個別の事業や部門計画等で対応できないかということも含めて考えさせていただきたい。

藤谷部会長

適切な管理という表現が曖昧かもしれない。どこまで盛り込むかということはあるが、重要な観点だと思うので、協議させていただきたい。

他に何か御意見があるか。

田村委員

前回、経済同友会として、通過型観光ではなく、滞在型観光にならないかと意見を述べた。宿泊客が足を伸ばして、広島市内にお金を落としてもらいたいからである。こういった意見は宿泊施設の整備の促進といった表現や「滞在時間の拡大による観光消費額の増大」といった文言に反映されていると思うが、宿泊ということがこの言葉から読み取れるだろうか。宿泊ということにこだわりたい。

藤谷部会長

宿泊については、現状や対応策の方向性の中でも触れているが、対応策の方向性の最後のところの文言をどうしたらいいか。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

宿泊施設が不足しているという現状もあり、施設が少ないからという御指摘はあるかもしれないが、宿泊客が非常に少ないという認識まではないことから、観光時間の拡大という表現をしている。今の御意見を反映すると、「宿泊客の増加に向けた」などといった表現を加えるということか。

田村委員

例えば、「宿泊等を伴う滞在時間の拡大」といった表現はどうか。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

承知した。文言については内部で検討したい。

藤谷部会長

これも表現の問題だと思うので、後で検討させていただきたい。

国際平和文化都市として重要なポイントが観光にはあると思うので、他に意見はないか。

福田委員

細かいことだが、12ページの「国際交流・国際協力や多文化共生の推進」では、多言語化という表現があるが、観光でも、いろいろな場所での多言語化ということを書く必要があるのではないか。「観光サインの整備や無料LANサービスの拡充など」と書いてあるが、ただサインが多言語化になっているだけでなく、例えば駅やバスの中のアナウンスなどいろいろなところの多言語化が必要だと思う。それがまた回遊性にもつながると思うので、一言をどこかに入れられないか。

藤谷部会長

多言語化という言葉は入っていないようだが、別に入れても問題ないか。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

御指摘のとおり、観光サインの整備には多言語化も含めて検討したいと思っている。それ以外の取組がどこまでできるのか分からないところもあるので、多言語化という言葉を入れるかどうかについては検討させていただきたい。

藤谷部会長

他に何か付け加えることはないか。

それでは、ピースツーリズム、観光地の適切な管理について盛り込んではどうかというフク委員の御意見、宿泊型観光の少し強調した言い方を考えてはどうかという田村委員の御意見、それから、多言語化対応について盛り込んではどうかという福田委員からの意見について、事務局と対応させていただきたい。

次に、12ページの「国際交流・国際協力や多文化共生の推進」について、御意見はあるか。特に御意見がなければ原案のとおりでよいか。

続けて、13ページの「地域特性に応じた個性的な魅力を生かしたまちづくり」について、「デルタ市街地やその周辺部、中山間地・島しょ部のまちづくり」についての御意見をお伺いしたい。先ほど、福田委員から御意見があったが、他に何か御意見があるか。

山田代理

15ページの「中山間地・島しょ部の魅力あるまちづくりの推進」について、中山間地域の交流人口の拡大のところに修学旅行の観点を記載してほしいと前回も発言させていただいた。恐らく「農山村体験民泊の受入環境整備など」という文言に包含されていると思うのだが、はっきりと明示する形で、例えば「修学旅行を対象とした」という文言は入れられないか。議事資料の修正のポイントに修学旅行の観点を反映したとあったが、特に表現として反映されていないような気がした。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

御指摘のとおり、「農山村体験民泊の受入環境整備」という表現に包含している。これは今年度、修学旅行生の受入れだったこともあって、この記載をもって足りると思っている。修学旅行に限定する必要もないのではないかと考えている。

山田代理

ただ、もし大人の民泊をする場合、簡易宿泊所営業許可があればできるので、交流人口を増やすという意味で修学旅行と申し上げた。修学旅行について、海外からの修学旅行の受入れを始めつつあるので、国内外の修学旅行を対象としたという文言、もう一歩進めて、中山間地域のみならず、広島市内の平和学習と連携させた、国内外の修学旅行を対象とした農山村体験民泊の受入環境整備という展開が望ましいのではないか。

藤谷部会長

最後の「農山村体験民泊の受入環境整備」のところに修学旅行を強調した文言を入れた方がいいのではないかという御意見だが、これも事務局と検討させていただきたい。

他に何か御意見があるか。

フंक副部会長

先ほどのインターネットの話について、移住者にとって魅力あるまちづくりにはインターネット整備が非常に重要なポイントである。私の学生たちも島への移住者にインタビューしてきたが、移住先を選ぶポイントにインターネットがある。移住者の支援策として書くのか、魅力を高めるためのインターネット整備について書くのかという問題はあるが、そういったことを書き加えてはどうか。

事務局（及川企画総務局長）

先ほども説明したが、広島市は、今、中山間地で高速ブロードバンドが使えないエリアについても、平成30年度、31年度で整備を進めており、全ての地域で高速ブロードバンドが利用できる環境になる見込みである。この総合計画がスタートする平成32年度の時点では、広島市域どこでも使える環境になっているので、インフラ整備についてはあえて32年度からスタートするこの総合計画には盛り込んでいない。先ほど福田委員がおっしゃったように、インターネットを利用するベンチャービジネスをされる方が広島市の中山間地域のどこに来ていただいても、高速のブロードバンドにつながる環境整備はできている。

藤谷部会長

前提として、フंक委員の御指摘のあったところは、完了しているため、文言は盛り込まないということではどうか。

フंक副部会長

承知した。

藤谷部会長

福田委員からあった、インターネットを活用した産業振興については検討させていただく。
他に何か御意見あるか。

田村委員

以前、去年の豪雨災害で大変な被害があったことから、災害関連で、我々の専門部会ともリンクする交通の話をしたところ、他の部会で対応されるだろうと伺ったため、恐らく29ページの「災害に強いまちづくりの推進」のところで書かれるのだろうと思っていた。業際になるが、対応策の方向性の一番上に「災害に強い都市構造を形成するため、豪雨災害被災地において、改良復旧を主眼に置きつつ、国や県と連携し、砂防ダムや河川、道路等が一体となった基盤施設の整備を推進する」と、道路の話が出てくるが、改良復旧という表現になっており、いわゆる事後保全や復旧が主体というイメージが付いているように感じる。我々が聞いたところによると、一本しかない道路が遮断されて団地が孤立したといった話や、あるいは道路が寸断されて、生活そのものだけではなく復旧活動も難しくなったといった話があった。また、経済活動も進まなかったという話もあって、迂回路や周回路を念頭に置いた交通計画も必要ではないかという意見を述べた。安全・安心に暮らせる生活基盤の整備で扱われるということだったと思うが、整理した上で、そういった表現も反映していただきたい。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

道路網の話については、おっしゃったように29ページのところにもあるが、まずは総論として、本専門部会で審議した7～8ページの「公共交通を軸とした交通体系の構築」に迂回路という言い方では

ないが、「拠点地区間や近隣市町との連絡を強化する道路整備」といった文言で、災害時の道路遮断についても含んだ形で表現させていただいていると思っており、これまでも取り組んできたが今後も体系的な道路整備を進めていくということで考えている。中には、街区の道路については迂回路を整備すると言っても、事実上迂回路を整備することが難しいところもある。

また、29ページの「災害に強いまちづくりの推進」に戻るが、ここも明示はしていないが、そういった道路について、道路の崩落を防ぐための法面の整備や、今、国が進めようとしている、土砂災害等発生時に道路に土砂が雪崩れ込まないようにするための施設整備といったことを検討している。こうしたことも含めて、対応策の方向性の1段落目の後半に「また、市全域において、土地利用の合理的な規制・誘導や防災・減災のための施設整備などに取り組む」と書いているが、直接の道路整備ではないにしても、道路が遮断されないための施設整備と併せて災害に強い道路網を整備していけたらと考えている。直接読みにくいところで申し訳ないが、趣旨としては御意見を反映して、実際の取組は進めていこうと考えている。

藤谷部会長

所管は他の専門部会になるが、御意見の趣旨は反映されているという理解でよいのではないかと思います。

他にないか。

福田委員

13ページの「デルタ市街地やその周辺部、中山間地・島しょ部のまちづくり」のところで、関係している計画に「広島市緑の基本計画」とあるが、その中には建物の緑化の推進もあると思うが、それはこちらの対応策の方向性では「花と緑と音楽の広島づくり」の推進に入っているという理解でいいのか。屋上緑化や壁面緑化に取り組んでいると思うが、都市部に緑の空間を増やすことが32ページ以降の「環境と調和した循環型社会の形成」に関連しているので、環境のところにもこうした建物の緑化の推進などに取り組んでいくことを記述しなくてもいいのか。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

非常に分かりにくくて申し訳ないが、御指摘のとおり、緑化の取組については13ページの「デルタ市街地の魅力あるまちづくりの推進」の対応策の方向性にある「花と緑と音楽の広島づくり」の推進という表現をしている。御指摘のとおり、自然環境の保全や都市環境の創造というところにも関係していると思うが、対応策の方向性は全体の方向性なので細かく書きづらいというところもある。

藤谷部会長

「広島市緑の基本計画」にブレイクダウンされて対応していくという形になると思う。大きな方向性というところでは書き込まれていると思う。

矢野委員

今の都市の緑化について、かつて平成22年度に「広島市緑の基本計画（2011-2020）」が策定された時期とは、緑地に関する取扱いが変わっていると思う。その中で、農業の項目になるのか、まちづくりの項目になるのか迷った上で、こちらで意見を述べる。「デルタ市街地の魅力あるまちづくりの推進」なのか「デルタ周辺部の魅力あるまちづくりの推進」のどちらに含めていただくのがよいかも微妙だが、現在、都市農業の公共性というか、都心にある農地の緑地としての価値に対する見直しを国が進めている点を反映したらどうか。都市農業は農業という産業面だけではなく、都市計画上の緑地としての価値あるいは市民の近くに農地、農業があるということで食農教育に果たす役割や、災害時に農地が土砂を食い止めるといった減災の役割もある。こうした減災への貢献など、一言で言えば公共性と言う言葉になると思うが、都市農業の公共性を、都市計画上でも農業という産業面だけではなく言及していただきたいので、まちづくりのところで書いていただけないかと思う。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

都市農業については、10 ページの「農林水産業の振興」で触れているという認識である。都市農業や都市における農地の役割は御指摘のとおりだと思うが、どこまで細かく書けるかというところは調整の上で判断させていただきたい。環境保全の話になると、こちらではより大きな方向性で記載して、個別のところについては部門計画で対応するという考え方もあろうかと思う。

矢野委員

担当部署である農政課の中で検討するのではなく、都市計画課でもそういった認識を持っていただきたいという意味で大きなところを書いていただいても、具体的なまちづくりのところを書いていただいてもいいと思う。

藤谷部会長

都市における農業の役割について触れてほしいということだが、こちらも調整させていただきたいと思う。

若本委員

都市計画に関連して、私も都市計画審議会の委員として参加しているが、立地適正化計画という都市機能誘導の話題でも出てくる計画がある。14 ページの「デルタ周辺部の魅力あるまちづくりの推進」の中で、本市の人口の約 25%が居住している郊外に都市機能を分散していくという考え方があって、現在の 25%の人たちが、中心部に通勤することで渋滞を巻き起こしているという見方もあると思う。この中に、やはりその都市機能を郊外に分散して市内に通勤しなくてもいいという環境づくりをしていく、郊外にもにぎわいをつくっていくという視点が書けないか。

藤谷部会長

通勤渋滞の解消のためにそれぞれの拠点地区におけるにぎわいの創出が必要ではないかという御意見である。書きぶりが難しいと思うが、どうか。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

周辺がどの辺りの人たちなのかということにもよると思う。立地適正化計画の上位計画である都市計画マスタープランにおいて、周辺地域で拠点地区を設定しており、例えば安佐南区では、古市、大町、緑井といった拠点地区がある。広島市としては、都市部にだけ集中させるのではなく、こうした周辺の拠点地区にも都市機能を集約していく方針なので、趣旨は反映しているのではないかという認識である。

若本委員

7 ページの「公共交通を軸とした交通体系の構築」の対応策の方向性に何らかの表現として書けないか。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

集約型都市構造、拠点地区については、5 ページに記載しているので、そちらで足りるという認識だが、調整の上、判断したい。

藤谷部会長

若本委員の御意見は 5 ページの「集約型都市構造への転換を図ることが求められている」という現状認識と、対応策の方向性で「高次都市機能の集積を図る」という表現で少し曖昧ではあるが、盛り込まれている。重複は避けたいと思うが、検討していきたい。

他にあるか。

下村委員

13 ページの「デルタ市街地の魅力あるまちづくりの推進」の対応策の方向性の下から 2 段落目に「公共空間を活用したにぎわいづくり」のところで「回遊性の向上等を図るための歩行環境の整備」、「人々が憩い、交流する魅力とにぎわいのあるまちづくりを進める」といった文章がある。これは、10 ページの「中小企業・商店街の活性化」にある商店街が寄与する取組の一つである。商店街の項目でまちづくりを進めるといったことを反映できないか。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

今の御指摘は 13 ページの記述を商店街の活性化の方にも記載してはどうかということか。

下村委員

どちらでもいいが、商店街が地域コミュニティの活性化に寄与する具体的な取組の一つとして、今の商店街には歩行者の環境整備やエリアマネジメントが必要だということだが、まちづくりと共通する部分なので、その辺りを加味した形で両方併せた書き込みにできないかという意見である。

事務局（藤岡総合計画担当課長）

今の商店街の活性化について、現場でも既に取り組んでいるイベントの補助、環境改善に向けた補助ということ想定した書きぶりになっている。こうした具体的な例示の中にどこまで盛り込めるのか、検討させていただきたい。

藤谷部会長

幾つか難しい表現のところもあったが、検討課題については再度事務局と話をしたい。

修正の少なかった 16 ページの「区における地域住民を主体としたまちづくり活動の充実」、「広島広域都市圏の発展への貢献」を併せて御意見を伺いたいがどうか。

特に御意見がなければ、原案どおりとさせていただきたい。

項目に沿って御意見を頂いたが、少し時間があるので、最後に皆さんから一言ずつ頂きたい。

浅枝委員

森林に関しては、平成 31 年度から森林環境税が新税として導入される。この森林環境税は市町が事業主体になる。31 年度も幾らかの補助金が市に降りてくるだろう。また、具体的な使い道については、国のガイドラインでは決まっているが、31 年度から始まるものなので、それぞれの市町で実施して、様々な問題点があれば、国で修正されていくだろうと思う。そういう意味でこの 10 年の総合計画には載せにくいところもあろうかと思うので、農林業の振興については今のような書き方でいいと思う。

伊藤委員

貴重な機会を頂き感謝申し上げます。2020 年から 2030 年までの 10 年に向けて、この 4 月からの改正入管法の施行によって外国人市民も増え、人口構造自体も変わっていくタイミングではないかと思うので、様々な期待と同時に不安もある中で、こういった計画を基に進めていく上で、時には柔軟に対応していくという要素も出てくるのではないかと思うので、こうしたことを踏まえ、広島青年会議所での活動にも生かしていきたい。

下谷委員

農林業は非常に体力を使う仕事だが、農林業の振興のため皆さんと協議・協力しながら頑張っていきたい。

下村委員

質問だが、総合計画が始まる時に宿泊施設は不足してるだろうか。今、八丁堀界限でもビジネスホテルが多く建設されており、今度米国の外資系ホテルも開業することになっているが、逆に余るの

ではないかという気がしている。不足という書き方が適切かどうかお聞きしたい。

事務局（政策企画課職員）

現在の宿泊率は約 40%である。今のところ、これからもまだ観光客は増えるという見込みで動いている。当然ながら、リーマンショックのような大きな経済の落ち込みがあれば、観光客が減少する可能性もあるので、そういった場合はこの表現も変えざるを得ないと思う。

田村委員

多種多様な意見を丁寧に反映していただき感謝申し上げます。これから実施計画や、個々の計画を策定するときに、様々なアイデアが必要だと思う。私ども経済同友会もまちづくり委員会だけではなく、様々な委員会があり、一生懸命検討しているので、もし何かあれば連携しながら、お手伝いできることがあればお手伝いしたいと思う。

福田委員

先ほど聞く機会を逃したが、7 ページの「公共交通を軸とした交通体系の構築」について、高齢化が進行すれば公共交通への期待が高まると思うが、ネットワークの充実も非常に重要なことだが、バス停や電停のバリアフリー化、使いやすさといったことにどこかで触れているか。路面電車は構造上難しい部分もあるが、バス停も歩道と一緒にあって、歩行者とバスを待つ人が混乱しているバス停があちこちにある。高齢者が増えていく状況で、JRの駅などはバリアフリー化が進んで、使いやすくなっているが、一番身近なところにある停留所の使いやすさの話にも触れていただきたい。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

使いやすさとバリアフリーの区別が難しいが、純粋にバリアフリー化で言えば、他の専門部会の所管になるが、31 ページの「生活環境の維持・改善」の対応策の方向性の一番下の段落に「公共施設や道路等の福祉環境整備を推進するとともに、JR駅舎へのエレベーター等の設置や、路面電車及びバスへの低床車両の導入など、公共交通等のバリアフリー化を促進する」としている。最近の広島市の取組では、中心部に切れ込みのあるバス停をストレート型に変更する検討を進めており、こうしたことも含めて環境改善に取り組んでいきたいと考えている。

福田委員

低床車両だけではなく、停留所についてはどうか。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

この場合、バリアフリーなのか利用環境の改善なのか非常に難しいところではあるが、先ほど申し上げたストレート型の停留所にするとといったことは、7 ページの対応策の方向性の「待合施設の整備などによる利用環境の向上」と表現した上で、具体的な事業を今後検討していきたい。

福田委員

電停についてはどうか。

事務局（藤岡政策企画課総合計画担当課長）

電停についても明確な区別が難しく、利用環境の向上とバリアフリーは一体的に進めていくものではあるので、どちらも道路交通局という部署が一体的に利用環境の向上とバリアフリーの改善に取り組んでいくことになる。

田村委員

広電の社外役員という立場で申し上げますと、今、実験的に広電本社前の電停を拡張して、待機しやすい環境にしており、将来は電車とバスが同じ停留所で利用できるようにといったことも考えている。

将来的には恐らくその方向にいくと思うが、なかなかすぐには難しいことでもあるので計画の中には盛り込んであるということでもいいのではないかと。

福田委員

承知した。

藤原委員

ここに出てきたそれぞれの提案を全部揃えたら、相当程度のコストがかかると思うので、持続性という観点で言うと、どこかに経営の側面を盛り込む必要があると思っている。項目を立てるというよりは、前段での書きぶりという気もするが、このような総合計画に基づいて投資をすることが、将来的に、さらにまちを活性化し、持続性があるというようなニュアンスが伝わるようにした方がいいのではないかと。決してコスト削減をしていくということではなく、これに取り組むことこそが持続性につながるという伝わり方ができることをどこかに書けば、今日頂いた提案が全て必要だということになっていくと感じた。

矢野委員

私がいつも利用している魚屋が今週で店を閉める。魚屋や八百屋に話を聞くと、今年中で店を閉めたいと言われる声が多く、それは消費税増税の影響や別の要因もあるが、中小の商店が経営を持続していくことが難しいまちになっているからではないかと感じている。一方、大型商業施設が乱立し、オーバーストア気味と言われているが、これから人口減少していく中で、大量生産、大量流通を拡大する経済より、今回SDGsに関連して項目をまとめていたが、藤原委員の御意見のとおり、持続性と矛盾しない形で対応策の方向性を実現化してほしいと思う。先進的で、経済的に拡大したまちが住みやすいまちだとは限らないと思うので、その辺りを広島で持っている資源を有効に活用できる形で実現していけばいいと思う。

吉田委員

これまでの専門部会の意見を多様な項目で盛り込んでいい形で取りまとめていただいたと思っている。加えて、都市基盤に関連の強い29ページに、田村委員からの御指摘にもあったが、「安心・安全に暮らせる生活基盤の整備」についても専門部会は別だが、上手く多様な意見を反映されていい計画になっていると思っている。

一方、これは専門部会の話としてするのがいいかどうか分からないが、非常に多くのものを盛り込んで、他の部会の部分もそうだと思うが、先ほど藤原委員からの御意見にもあったように、経営的な視点というか、財政制約の中で本当に全部実行できるのかというところがあると思う。これは全体の審議会での議論なのかもしれないが、各項目を横並びではなく、難しいことだが優先順位を付けていくことが本当は必要だと思うが、それはこの部会のミッションを越えることなのだと考えている。書きづらいことではあるが、政策を進めていく背景にはそういう優先順位を認識しながら進めていただけたら本当に良い計画になると思い、一言申し上げた。

若本委員

他の部会も含めて意見を出したが、取りまとめいただき感謝申し上げます。大きなお金が地域外に出ていくところにもう少し注意を払う必要があると感じる。今朝の中国新聞でも、シャレオに1割以上の空きテナントがあって、テナント誘致に関東の企業と契約を締結したという記事があって、これは関東首都圏の大手のチェーン店が出店して、家賃は払うと思うが、その売上げは全部地域の外に流出していく。地方都市の高齢化が進み、市場としての魅力が無くなれば、そういう企業は撤退していく。広島の特徴としてスポーツ王国があると思うが、サンフレッチェやカープでは、これまで育ててきた一流選手を他の球団やチームに引き抜かれていくということがある。スポーツに学ぶとしたら、例えば巨人軍から長野選手をトレードでお金を出して引っ張ってくる形ではなく、丸選手を育てて、その選手が活躍をして、大きなお金を払ってでも向こうが欲しいと言ってくる、こうした形で広島市

自身もインキュベーションのような形で、たまにお金をかけないような形でお金になる、成長できるような計画ができると、広島という都市はすごいと思う。例えば、青山学院大学の原監督が弱小チームをあれだけ成長させた点についても、広島ならではの力ではないかと思う。様々なキャッチフレーズでその人たちをやる気にさせるといところで、広島らしさを発揮できるのではないかと思う。

山田代理

貴重な機会をいただき、感謝申し上げます。これから実現に向けて、案件によっては早急に対応していかないといけないこともあるかと思うので、こうした部分についてはスピード感を持った対応をお願いしたい。

フंक副部長

先ほど、宿泊施設の話でも出たが、想定しにくい、どうなるか分からないという項目はたくさんあると思う。そういう意図を含んで、先ほどは抽象的に「観光地の適切な管理」というように、宿泊施設の整備というよりは、減ることも増えることにも対応できる表現を提案した次第である。短期的に変わる観光のような現象に対しては、今後、長期的な総合計画でどの程度柔軟に対応できるかということが大きな課題になろうかと思う。

藤谷部会長

部会長として、事務局に膨大な資料をまとめていただき、感謝申し上げます。運営の不便もあったかと思うが、皆さんの意見を反映した計画ができたと思う。これから広島市が取り組んでいく上で、吉田委員が言われたように工程表と優先順位をブレイクダウンしてつくっていくと思うので、是非それを期待したいと思っている。今日の具体的な修正内容については、副部長及び事務局と協議の上、私の方に一任させていただきたいと思うがどうか。

(異議なしの声あり)

藤谷部会長

それでは、一任を頂いたということで最終案を取りまとめていきたいと思う。本日が最後の専門部会になるので、改めてこれまで3回の審議において、貴重な御意見を頂いたことに御礼を申し上げます。運営に御協力いただき、感謝申し上げます。本日の会議はこれにて終わりにしたいと思うが、事務局から何か連絡事項はあるか。

事務局(金森企画調整部長)

本日頂いた修正意見等については、事務局で検討し、正副部長と相談をさせていただいた上で最終案として取りまとめ、結果について報告したい。

本日は専門部会としては最終回であり、特に専門委員においては、本日が最後の審議であるため、重ねてお礼を申し上げます。総合計画審議会の委員においては、来年度も引き続き審議をお願いするため、よろしくお願ひ申し上げます。

今後のスケジュールについては、3回目となる総合計画審議会の全体会議を5月以降に開催するように考えている。具体的な日程については、改めて連絡する。事務局からは以上である。

藤谷部会長

それでは、本日はこれで閉会する。